平成３０年度米子市美術館協議会議事録概要

開会（１５：３０）
岡 文化観光局長 挨拶

議題（1） 平成 30 年度米子市美術館事業報告について
（古川管理員が資料に沿って事業報告を行う。以上、補足。）

・資料の訂正をお願いします。②教育普及事業 イ 特別共催展「アール・ヌーヴォーの華 ミュシャ展」関連事業オープニングギャラリートーク終了時間を、午後 11 時 40 分ではなく午前 11 時 40 分に訂正をお願いします。
・平成 30 年度総入館者数は 1 月末時点で 56,767 人となっております。昨年同時期に比べて 10,395 人の減少となっております。内訳は、主催事業の入館者数が 8,878 人の減少、貸会場事業の入館者数が 1,517 人の減少となっています。
・特別共催展Ⅰ「アールヌーヴォーの華 ミュシャ展」では、昨年の特別共催展「放浪の天才画家 山下清展」と比べ会期は同じでしたが入館者数は減少となっております。しかし 20 代～30 代の女性入館者の比率が上がり、アンケート回収比率が昨年まで 8%であったものが今年は 20 パーセント強となっています。その回答の半数以上が、初めて美術館を訪れたとの回答。また、「ミュシャ展」では、美術館で初のウェブレポーターの実施や、会期中に一部の作品を除き写真撮影を許可したことも大きな変化となっており、入館者のブログ・SNS などに写真を掲載することで、それを見て来館された方も多く、いい傾向となりました。シャッター音などを不快に感じられる方がおられたのも事実で今後の検討課題としています。
・特別共催展Ⅱ「大山山麓の至宝～「大山」ゆかりの刀を中心に～」では、昨年の特別企画展Ⅰ「アール・ヌーヴォー ガラス工芸の美」とほぼ同時期に行いましたが、今年は有料展示だったために入館者数は減少となりました。実行委員会の方針で、テレビ CM や新聞広告を出さなかったことも一因です。結果として、主催事業の入館者は減少しました。大きな試みとして、米子市美術館では初となる、重要文化財 6 点を展示。8 月 8 日には眞子内親王殿下のお成りがありましたことも大きな話題となりました。「ミュシャ展」と同様に、20 代～30 代の女性の入館者の比率が多く、アンケートの集計比率にも表れています。
・２つの特別共催展の入館者減少はあったが、これまで少なかった年齢層の入館者が増加したことは良かった点です。
・市展では、一昨年度から出品料を徴収し賞に賞金をつけるようになりました。

今年は 3 年目となりますが出品点数、出品人数とも、ここ３年で最大。入館者数は昨年に比べ 131 人の増加となっております。また、出品料徴収前と比べて出品点数、出品人数ともに大幅に増加となっております。賞に賞金をつけたことで、出品者の出品意欲に繋がっているのではないかと言えると思います。
・常設展では、今年度は 2 回開催で会期も 44 日間。昨年度は 2 回開催で 38 日間。会期日数は増えたものの入館者数は減少となりました。要因として、これまで「秋の文化祭」時期（9 月～11 月）の開催が多かったが、今年度は常設展Ⅱが他の事業との調整のため、1 月開催となったためではないかと考えられます。しかし近年、文化の日・関西文化の日を無料開放日としていますが、今年度は常設展Ⅰが「はたらく人々」ということで、初めて勤労感謝の日も無料開放日にいたしました。近年は無料開放日に観覧者が集中する傾向があり、年々、認知度が上がっており、無料開放日の入館者は増加となりました。
・共催展では、今年で 5 回目となる「米子市障がい者アート展」に加え、「世界で一冊の絵本原画展」、「鳥取県指定文化財展」を実施し、合計 3 展を米子市との共催展として実施しました。
・今後の予定としては、一昨日開幕した「金畑実とゆかりの作家たち」が 3 月 17 日まで開催。「金畑実展」の、現時点（2 日間）での入館者は 224 人。関連事業「オープニングギャラリートーク」の参加者は 82 人でした。
・ミュージアムスクール「美術上映会」2 月 3 日実施の参加者は 22 人でした。
・貸館場事業の利用件数は、平成 29 年度 48 件、平成 30 年度は 46 件と、ほぼ同数。年間スケジュールとしても貸会場予定は埋まっており、空きがない状況です。「秋の文化祭」は、平成 30 年度 27 団体 14,713 人、平成 29 年度 26 団体 12,544 人と昨年度に比べ 2,169 人の増加となりましたが、貸会場全体の入館者数は 1,517 人の減少となりました。
以上で、平成 30 年度の事業報告の補足説明を終了いたします。

（高増会長）ありがとうございます。それでは、只今の説明について何か質問、ご意見ございましたらお願いします。

（鐘築委員）「大山山麓の至宝」ですが、説明で実行委員会の意向で CM と宣伝をされなかったのいうのは。

（今副館長）1300 年祭として、全体のイベントが多かったので、単独告知ではなく、全体告知というような広報となったため、通常の美術館で行うような新聞広告等の広報できず、この展覧会も 1300 年祭の一事業という扱いで、通常の企画展などよりは少なかったのではないかと思います。

（鐘築委員）初めて、刀剣を鑑賞しましたが、その感激や、本当に魂を抜かれそうな感じがしました。初めて重要文化財の刀等を扱われたということは凄いと思います。私は、協議会に参加させていただいているので、重要文化財の展示があるなどの情報を手にすることができるので、周囲の方には宣伝しましたが、一般市民の方に重要文化財の刀が米子で展示されるという情報が伝わりきらないのは、勿体なかったと思いました。

（高増会長）他には何かございませんでしょうか？

（大谷委員）入館者の件ですが、「ミュシャ展」と「大山山麓の至宝」の両方で、これまで美術館にあまり来ていただいていない新しい年令層が増加したとのことだが、トータルでの入館者が減っているという事は、これまで来ていただいていた年令層が減っていることになるが、美術館としては、どういう原因があるとお考えですか。

（中村館長）比較になりますが、一昨年の「山下清展」に比べ 4,000 人程度減少しましたが、作家「山下清」は、家族で鑑賞しやすく、全ての年齢層において鑑賞しやすかったのですが、今回の「ミュシャ展」は、若い方は多かったが、期待していた年配層の女性の方が来ていただけなかったと考えられます。ただ、やはり人数だけではないと思いますので、10,000 人以上の入館者があり、特別展としては、多くの方に観覧していただけたと言えると考えております。一昨年と比べて減ったという風に感じられたというのはあるかと思います。

（高増会長）他に、ご質問はございませんか？よろしいでしょうか。では続きまして、議題（2）の平成 31 年度米子市美術館事業計画について美術館から説明をお願いします。

議題（2）の平成 31 年度米子市美術館事業計画について
（今副館長が資料に沿って事業計画を行う。以上、補足。）

・特別企画展「小灘一紀の世界」展（仮称）、小灘氏の作品は、現在開催中の「金畑実とゆかりの作家たち」の中でも展示中。金畑氏に師事、2017 年には全国公募展「改組新第 4 回日展」で、内閣総理大臣賞を受賞。それを記念して小灘氏の画業を郷里で一堂に展示観覧をと企画。現在、日展評議員で大阪芸術大学准教授。

・特別共催展Ⅰ「北原照久コレクション「懐かしくて温かいおもちゃの世界展」~明治・大正・昭和の広告物も大集合~ 同時開催：安部朱美創作人形展」については、テレビ番組「開運!なんでも鑑定団」でおなじみの鑑定士で世界的おもちゃコレクターでもある北原氏のコレクションから約 1,000 点を展示。同時開催の米子市在住：安部氏制作による創作人形の展示では、伯耆国「大山開山 1300 年祭」を記念して制作された「御幸行列」を再現した作品も特別に展示します。関連事業として北原氏による講演会、ギャラリートークなども複数回開催予定。既にチラシも配布しておりますのでご覧ください。
・特別共催展Ⅱ「チームラボ★学ぶ!未来の遊園地 IN 米子」（仮称）は、Yonago ヒカリ☆マチ アートプロジェクト実行委員会との共同主催で実施。世界最先端デジタルアート展示鑑賞は、山陰での大型展示は初開催となりますので、こちらも注目していただきたい。展示に向け、全展示室のウェブ環境を整える調整などの作業も進めていきます。重要文化財などの展示とは違った、初めての展覧会となりますので準備を進めているところです。
・共催展Ⅰ「米子市障がい者アート展」は、31 年度で 6 回目となります。年々、入館者数も増えており継続して盛り上げていければと考えています。
・小企画展は、AIR475 との連携により、中心市街地の旧加茂川周辺を対象に事業構想を検討し 2024 年の鳥取県立美術館オープンに向け、そのような形で展覧会を企画していこうというところです。
・市展に関しては、年々、入館者数が増加。出品数も増えてきているということで、皆様のお力添えを頂き盛大に進めていくところです。
・県展に関しては、市展同様、入館者数が増加しています。
・常設展については、「チームラボ」「北原展」で展示セットの設営で長期日程が取られるため、31 年度は 10 月 27 日～12 月 1 日の期間で開催。前期・後期の入替式で計画しています。
・教育普及事業の美術講演会については「北原展」での開催と、「小灘一紀展」でも開催を計画しています。
・資料収集事業・貸館事業・その他事業についてもこれまでどおり継続して行っていこうと考えております。以上を持ちまして、平成 31 年度の美術館事業計画の説明を終了いたします。

（高増会長）ありがとうございます。ただいまの内容について何かご意見、ご質問はございますか。

（湯原委員）最近いろいろな新しい事業をされ米子市美術館の取組みについては良いことですが、特別共催展Ⅱ「チームラボ★学ぶ!未来の遊園地 IN 米子」（仮

称）という新しいタイプの展示だとは思いますが、私自身もですが、カタカナ文字の表記については、年配の方は抵抗感を持ちます。上手に宣伝をされないと、見向きもされない、せっかく良い企画をされていながらも、タイトルからも、何これ？と、思われてしまいますので、宣伝の仕方だと思います。企画は良くても、どう伝えるかというところが、成功するか不成功に終わるかということになると思いますので、十分に計画を立て戦術を立てなければ大失敗すると感じますので、良い内容だから人が来るだろうという風に思っていると、いけないのではないかと思いますので、そこをしっかりとしてほしいと思います。以上です。

（今副館長）「チームラボ」展は、中海テレビさんが実行委員会に入っておられますので、そこ以外でも地元新聞社やテレビ局の協力も得て、山陰初ということで、沢山の方に来ていただけるよう広報計画を考えています。また、同時期開催の日本海新聞さんが実施される、親子向けイベントとの連携や盛り上げ方について計画していますので、ご意見がありましたら参考にさせていただきたいと思います。

（鐘築委員）「チームラボ」は良い企画だと思っており、東京などで開催している展示に、子供たちを連れて行きたいと思っていたところです。会期も夏休みなので、本当に宣伝の仕方だと思います。子どもたちも凄く喜びそうで、ぜひ体験させてあげたいと思います。先ほど話された、手仕事のような世界も私は凄く好きで、そういうものを次世代に伝えていきたいと思いますが、今の子供たちはデジタルという言葉などの、インパクトが強いものに飛びついてしまうところがあると思います。手間暇かけたものも大切ですけど、まずは美術館に足を運んでもらうこと、米子でこんな企画展示があるんだというので、まずは来てもらいたいと凄く思いますので、そういう意味では家族連れに来ていただけるものだと思うので宣伝の仕方だと思います。「チームラボ」なら 20,000 人どころか、東京などでは、凄い入場者数で入場制限が行われているようなので、米子だけでなく中国地方の広島・岡山からも来られるのでは。それくらい宣伝をしていただけたらと思っています。

（福島委員）新聞に、横文字の事についての記事がありました。本当に理解できる内容で、やはり「チームラボ」は、私には難しい。

（今副館長）サブタイトルには「学ぶ!未来の遊園地」とあります。「チームラボ」自体は団体の名前ですので。

（中村館長）「チームラボ」につきましては、現代の最先端デジタルアートを、チームラボという集団が世界に向け発信しているものです。チームラボと聞いても全然知らないという方も多くおられます。地方では、なかなか馴染がないので。先ほどの話の、カタカナ文字やアルファベットが使ってあるだけで馴染めないと言われる方もおられます。昨日、岡局長とも「チームラボ」について話をしましたが、やはり宣伝の仕方が重要だというところは考えております。

（福島委員）こういった表記に馴染めている子どもたちなら分ると思いますが私たちのようなアナログ世代にはカタカナやアルファベットが言葉に使われると分らなくなってしまう。先ほどの「山下清展」「ミュシャ展」ですが、山下清は、とても国民的な一人の画家ですが、ミュシャは、国交もなく日本からの旅行もできなかったような時代で、それが緩やかになった 2～3 年後に行ったことがあるが、その場に触れなければ理解が難しい。勿論、ミュシャの作品を初めて観て感心した。若い女性が沢山来られた気持ちがよく分ります。ただ、一般の普通に暮らしてきた人たちは、山下清は身近な画家だが、ミュシャは遠い人だと思います。ただ、それだけ価値のある作品を展示されたのは良かったと思いますが、ベースに共感できるかどうか。よほど宣伝しなければ、沢山来られないと思います。「ターシャ展」は、テレビなどで繰返し放送で周知されたので、そういった放送が重要だと思います。入館者数をみると色々なことを考えます。毎回、テレビなどで報道していただけるわけではないと思いますが。

（中村館長）日本海新聞さんとの共催事業は、毎日掲載していただけますが、そうでない場合、寄稿文の掲載をお願いしたりしています。

（今副館長）「チームラボ」豊洲とお台場の展示を観覧してきたが、大人でも単純に楽しめる要素もあり、本能に訴えかけてくるような仕掛けが沢山ありました。内容についても、日本の伝統的なものを尊重したものもあり、様々な年代の方に楽しんでいただけるというところで、各地の開催地で多数の入場者が記録されています。

（鐘築委員）規模的なところは。

（今副館長）展示室の原型が分からなくなるくらいの施工を予定しています。あわせてネット環境なども各展示室で整備予定です。

（鐘築委員）他の開催地は広い空間で行われているようですが、米子バージョンのようなアレンジされるのでしょうか。

（今副館長）教育目的のタイプの展示が中心となります。親子連れや、大人の方も楽しめる内容になっております。また、「北原展」で上の世代の方に楽しんでもらい、「チームラボ」は、全体もそうですが、若い方にも単純に参加して楽しいものとなっています。

（細田委員）先ほどから「チームラボ」の話で、子どもたちがということですが、会期が夏休みということで、学校がある時期だと学校で連れて行けると思いまして。今年度、明道小学校では、鳥取県立博物館の事業に参加させてもらい、土方稲嶺という江戸時代の絵師の展示を観覧しました。申込みの段階では、どういった展覧会かは分らなかったのですが、バス代も負担していただけるということで、本校の 4 年生を参加させました。日本画の展覧会ということで、どうなるんだろう？と、思いながらの参加でしたが、物凄く満足して帰ってきました。学芸員の方による屏風絵や掛け軸の説明も、短時間の子どもたちが分かる程度の説明だったのですが、子どもたちは満足して帰ってきました。高齢化や後継者不足といったような話も聞きますが、子どもたちは、そういうものに凄く関心を持って、大人でも難しそうな展覧会を、子どもたちは興味を持って観ることができると凄く感じました。米子市美術館でもやっていただけると良いなと。土曜日曜のイベントや夏休みのイベントなどありますが、学年単位で鑑賞するような。以前、就将小学校で、子どもたちを連れて行ったことがあります。皆で歩いて行ったことを覚えています。家族でといっても、全てのご家庭で連れていっていただけるというわけではないので、学校で連れて行けば皆が触れる機会が大きいのではないかと思います。ぜひ、「北原コレクション」でも企画してもらえれば、子供たちは、楽しんでくれると思います。「チームラボ」は、子どもたちが皆で一緒に観たら絶対楽しいだろうなと、想像しながら思いました。ぜひ、そのようなものもしていただけると嬉しいかなと思います。

（鐘築委員）美術館年間スケジュールの中で、何日間かを小中学校の何年生を受け入れます的なことは可能でしょうか。

（中村館長）それはできます。

（鐘築委員）学校や教育委員会にスケジュールを提示することで、歩いて美術館まで行ける近隣の小中学校であれば、児童文化センター（プラネタリウム）

や美術館などを学校授業の一環の中で利用したらと学校へお願いしたことがありますが、その当時は、行事等で忙しいため、学校側が申し訳ないが結構ですということでした。細田委員の話で、学校でという話もありましたので、美術館の方から提示していただき、数校が利用するといったことができればと思います。

（細田委員）全部の学校というのは、美術館も大変でしょうから、先着 4 校などで企画していただければ、数校は利用するのではないかと思います。

（中村館長）基本的に美術館はオープンな施設ですので、主催事業だけでなく貸館事業、秋の文化祭など、いつでも見ていただけます。展覧会によっては、有料になりますが開館していれば受入可能です、ご希望があれば、作品解説などもさせていただきます。

（岩下委員）貸館のことですが、12 月 15 日に、次年度の貸館利用が決定しますが年間スケジュールには反映されていますか。

（中村館長）添付のスケジュール表には詳細までは記載しておりませんが、既決まっております。

（高増会長）その他、何かご意見、ご質問はございますか？よろしいでしょうか。来年度、新たな試みとして「チームラボ」の開催や、あわせて「北原コレクション」などで、様々な年齢層に合わせた展示がされるということで、多くの人に来ていただければと思っております。これで、議題の方は終了させていただいきます。では、その他で、何かありますでしょうか。

（仁宮委員）美術館を利用させてもらって 25 年になりますが、開館当時は展示室のパネルの設営が大変でしたが、会員の高齢化もあるなかでパネルの設営が楽になり助かっています。それ以上に、古川管理員が美術館に入られてからは、皆さんが助かっています。古川さんにお願いすると、何でもサッとしていただいて、本当に助かっています。これからもよろしくお願いします。

（中村館長）ありがとうございます。パネルが重たいものなので、利用者の皆様の怪我に繋がってはいけないということもあり、組み立て平面図をいただき、できる限り事前準備はさせていただいたおりますが、スタッフも少ないため、貸会場の方にお手伝いいただくことはご容赦ください。

（長田委員）長い間、美術館の活動を見ておりますが、この時代に、色々と街の話題はあるなかで、美術館の特徴が、倉吉や鳥取もですが、その土地の特徴を上手く活かしていくような企画が立てられていると思いますが、米子もこれに沿って 10 年 20 年と進められてきたと思います。これも、皆さんのご努力の成果だと思いますが、弓浜半島、大山、中海と、こういう良い土地はないかと思います。委員の方の話を聞いて、当時に比べ良くなったと思っていますが、更に、米子に訪れたら美術館に行きたいといったような、子どもの目を引くような企画もしないといけないが、アールヌーヴォーのような展示も良かったと思います。このエリアが寂しくならないようにしていただきたい。多くの委員の方が討議されているので、米子の美術は非常に進歩したと、私は感じます。

（高増会長）ありがとうございます。その他には何かございますか。よろしいですか。以上を持ちまして議事は全て終了いたします。ありがとうございました。

（事務局）これで、美術館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会（１７：００）